

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	えがの玉手箱		
○保護者評価実施期間	令和8年1月21日		～ 令和8年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和8年1月21日		～ 令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の特性を活かし、充実した集団レクリエーションプログラムを行っていること。	レクリエーションの振り返りを行い、児童個別の特性や結果を踏まえた上で次回の工夫を行っている。	レクリエーションには児童からの要望も踏まえたうえで更なる充実したレクリエーションを行えるようにする。
2	個々の特性を踏まえたうえでの学習支援や自立課題を用意している	段階的に児童一人一人の能力を分析しその児童に見合った課題を設けている。	課題については指導員と共に行うものを用意すると共に、自立して活動できる課題も設けて自立活動の訓練も行えるようにする。
3	事業所で行った内容について保護者へ送迎時のみだけでなく、LINEやブログ等でも写真や映像を交えてより具体的にわかりやすく活動内容を伝えている。	文章だけではなく、写真や映像も用いることでより具体的にわかりやすい伝達を行い、支援内容の共有をはかっている。	できるときに支援の内容を実際に目にしていだいたり、保護者との面談を行い支援内容の共有や具体的な方向性を決めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員同士での会議をする機会が少ないこと。	シフト制の為、欠席者が出ることが多く全体でまとまって会議をする時間があまり取れない。	定期的に会議をする日程を決め、不参加の職員がいれば会議内容の伝達を行えるツールを活用して連絡を行うようにする。
2	活動できるスペースが狭くなっていること。	活動する人数が増えていることや、物品が完全に整理されていないことが原因。	整理整頓をしっかりと行うと共に、空間を有効活用できるようにする。また、施設の増設も今後視野に入れて活動を進めていく。
3	第三者の意見を踏まえた支援を行っていくところ。	第三者委員会を設けておらず、客観的に事業所の課題を提示し下さるかたがないこと。	第三者委員会を設け、客観的に事業所を評価していただき今後の課題解決に向けての取り組みを進めていく。